

長田下地域自治 振興会だより 第33号

2018年(平成30年)11月22日発行

第15回秋の長田下地域 大運動会 10月7日(日)

「今年は台風が多いが大丈夫かな」…この心配が幸運にも外れて、当日は好天に恵まれ、参加者110名元気でプレイしました。5区の是貞一穂さん・鈴菜さん親子の開会宣言の後、4組に分かれて互いに競い合いました。熟年者の活躍が見られたグラウンドボーリング。チーム全員が懸命に投げ上げた紅白の玉入れで盛り上がりました。



「この地区は元気な子ども達とはつらつとしたご老人が多いな」…少子化の中でも、かなりな数の子ども達が暮らすこの地区です。将来を担う子ども達の元気な姿が見られたパン食い競争では、明るい気持ちになりました。

また、今年は、75歳以上の方の敬老行事として振興会より記念品を贈呈しましたが、ご老人も元気で地区の柱を担っておられます。

「土のう作りにもやる気だな」…今年は、防災訓練として、安芸高田市消防署より2名の指導者を迎えて「土のう作り」を経験しました。相手を傷つけないスコップの使い方や効果的な土のうの積み方などを学びましたが、子ども達も熱心に参加しました。その後は、昼食のうどんを美味しく頂き、成績発表、そして6区の岡崎晴輝くんの閉会宣言で無事終了しました。ふれあいと絆の充実した行事でした。関係者の方に感謝しています。(T.K)



「地域の柱」・敬老行事



「防災訓練」・子ども達の手つきも上達

子ども会活動

七月の豪雨災害の影響は様々なところで出ています。特に、通勤・通学の足である芸備線の不通の影響は大きく、この地域からも県北・広島市内の学校へと通う学生は鉄道代行のバスに頼らざるをえません。一日も早い芸備線の全線開通を願います。

このところ夏休みに入ったぐらいに子ども会行事をしていたのですが、今年はクリスマス前に延期となりました。でも子ども達の集う機会がなくなったわけではありません。伝統芸能の獅子舞が7月8日(日)に下長田集会所で、秋の例大祭が9月9日(日)に長田神社で行われ、笛の担い手として子ども達も参加しました。そのため、例年になくにぎやかで盛り上がった例大祭になりました。

今年度の長田下地域(4・5・6区)の子ども達は、5人の中学生が卒業されて、中学生2人と小学校高・中学年5人、低学年が5人となりました。笛の練習が何回かありましたが、低学年の子ども達にとっては、まず音を出すのに苦労していました。これから先には「オーヒーハヤロロ、オーハヤロ」と笛の音が高らかに響くのを期待しています。指導して下さった吉元光幸さんをはじめ携われた方々にお礼申し上げます。

秋の恒例行事になりつつあるハロウィーンパーティーが10月最後の日曜日に下長田集会所で開かれました。みんな思い思いの仮装に身を包み楽しいひとときを過ごし、お菓子をもらってご満悦でした。

(T. K)



盆踊り 8月14日

今年は、7月の豪雨災害、そして例年になく猛暑続きでありましたが、「みんな、元気で頑張ろう」の気持ちを込めて、盆踊りが行われました。

昨年に続いて、今年も「仮装」して踊りに加わって頂いた方もおられ、盛り上がりました。踊りの輪には、年を重ねるごとに、若い方や元一杯の子ども達の参加が増えているように思います。

主催の明神クラブの皆さん、応援頂いた地域の皆さん、そして、ご支援頂いた長田下地域自治振興会、六風会の皆さん、お疲れ様でした。

(K. M)



「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える②

今回は、隠地の長田7区、兼村さん宅前の山中にある「高庵寺跡」をたずねてみることにしました。きっかけは、長田集会所からの帰り道、兼村さん宅横を通って、上の市道に出たところの地名表示板に、「長田字高庵寺」と書かれているのが目に止まりました。地理や歴史に詳しくないので、こんな所に寺があったことも知らないし、どんな寺なのか、だれが建てたのかも分からないので調べてみたくなりました。

そこで、地元の広岡則行さんに、道案内をお願いしました。広岡さんは、道案内をしながら、「このあたりの田畑の地番は、高庵寺〇〇番地となっているよ」と話してくださいました。

下の写真が、寺跡と思われる所です。縦約10mに、横約15mの平地と、一段高いところに、大きな杉がたくさん立っている100平方メートルあまりの平地がありました。



また、敷地の丘側に、13基の五輪塔が並んでいました。以前は、20基ほどが整然と並んでいたそうです。寺の柱の大きさを確かめる礎石も見つけ出せなかったもので、寺の確かな実像は分かりません。

広岡さんたちの幼少の頃は、この辺が子どもの遊び場になっていて、寺の境内らしい場所には、茶碗などの土器のかけらも多く転がっていたそうです。

高庵寺について書かれた資料は、なかなか見つかりませんでした。やっと見つけた「向原町の民話と伝説」(玉井寿郎著)という本の中に、「高庵寺は、鎌倉時代初期の建物で、内藤氏の菩提寺である。真言宗のお寺で、広い寺領(坊区という)をもっていた」と、数行書かれていました。これから、もっと文書を探してみようと思います。

広岡さんの話では、「内藤氏の統治後、時代が経ち、後には、この高庵寺に尼さんが住んで、寺を守っておられた」というようなことを、親から聞かれたそうです。わたしたちの住む長田下地域の史跡や文化財も、気づかないことが多くあります。「ふしぎだな。なぜかな。なんだろう」と、疑問を持ちながら探していくと、思わぬ宝や文化財に行きつくのではないのでしょうか。

(F. T)

長田下地域人物伝⑱

～竹岡 秀夫さん（6区）～

「やっぱり竹岡さんに登ってもらわんといけんわー」

この広報の「郷土の文化財」のテーマの一つであった「火の宮さん」取材のために当広報取材班(?)が何回かの空振り登山を行った後のお願いでした。「そうかいの、すぐに分かるはずじゃがのー」と言いながら道案内をして頂きました。

～「火の宮さん」については「振興会だより30号」、さらに「薬師さん」は「同29号」でも紹介しましたが、この2つの宮再建・修復の功労者が吉岡さんと竹岡さんなのです。～これが昨年のご事でしたが、今回の取材でその縁を想起しました。



「皆さん、これでいいでしょうかね」

永い広島への勤めの後に、当地区の六区長職（行政囑託員）を6年間担われましたが、その時の「常会」では、地区の皆を見て同意を確かめながらもてきぱきとした運営を行われたことを先の言葉と共に思い出します。当時、地区の住民生活が便利で融通の利くものになるように町役場（当時）との交渉も細やかになされましたが、その時には「役場では、少々うるさがられてもしょうがないわ、それが地区のためになるのなら・・・」の気持ちで、何回も役場に足を運ばれました。その結果の幾つかが、減反事業での地域裁量幅の融通性やゴミ集積所の増設などです。

「長靴を持ち帰るために、私も朝早くから出勤しましたよ」

竹岡さんはこの地に生まれ、20歳頃からの勤めで広島市に芸備線で通勤されたのです。その当時は、冬には雪が深くて長靴を履いて家を出るのですが、それで広島市内は歩けません。少々気恥ずかしいのです。そこで、奥様は下長田バス停まで履き替え靴を持って行かれ、長靴を持ち帰るために出勤されたのです。

～これは私も実感できます。50年前頃は、この地域は深い雪で長靴は必需品で、そのまま広島市内へ出かけると、市内では、みな普通の靴を履いていたため恥ずかしかったことを思い出します。～



移転後の火の宮さん前で



改築後の薬師堂前で

「昔は面白かったなー」

昔の芸備線では、飲んだり食ったりしゃべったりの風情(?)ある通勤が行われており、それを40年余り経験されました。また、地域では趣味の麻雀仲間との交流も頻繁にある楽しい生活を送られたことから、地区の世話役で面倒なことを担いながらも、どこかゆとりと面白みを感じさせる余裕を持たれていたと思われまます。

・・当時の活躍期のことを思うと齢を重ねられた竹岡さんですが、まだまだ元気です。いつまでもこの地区をよろしく願います・・

(T. K)